

西之内町地車新調 実行委員会通信

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（18）

八幡大菩薩

西之内町の皆様におかれましては、本年の祭礼に多大なるご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。3年ぶりの通常開催となった祭礼も、試験曳きから宵宮本宮の曳行を終え、無事納庫できました。

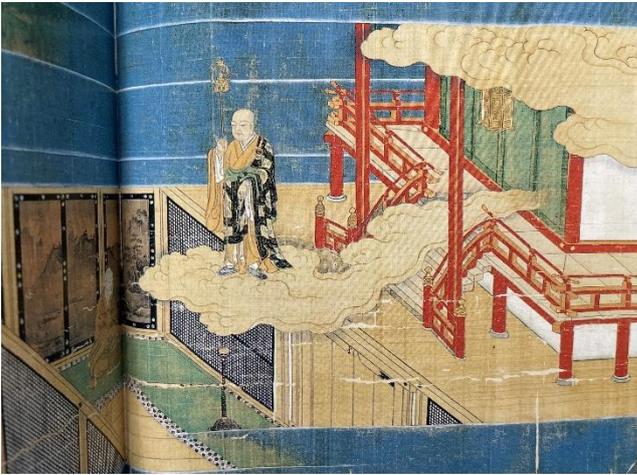
さて、新調だんじりの完成時期の話がささやかれる中ですが、当月も新調地車の彫り物の場面についてご紹介します。兵主神社には御祭神の天照皇大神、八幡大神、菅原道真公の三柱がお祀りされております。もともとは、八千矛の神がお祀りされていたという話をご紹介しましたが、当月は八幡神の物語についてご紹介します。八幡神（やはたのかみ、はちまんじん）は、清和源氏をはじめ全国の武士から武運の神（武神）「弓矢八幡」として崇敬を集めました。菅田別命（ほんだわけのみこと）とも呼ばれ、応神天皇と同一であるとされます。神仏習合時代には八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）とも呼ばれました。

2022年号
10月

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712

今回ご紹介するのは『菅田宗廟縁起絵巻』から、空海が菅田宗廟を参詣する場面です。

天長3年（828年）4月15日、河内国古市郡西林寺に滞留していた弘法大師



菅田宗廟より出現の
八幡大菩薩

空海が、菅田宗廟に参籠します。その際八幡大菩薩が、手に錫杖（しゃくじょう）を持ち、袈裟を着けた老僧の姿で瑞雲（ずいうん）に乗って現れます。

八幡大菩薩は、空海に問います。

『帰命金剛秘密仏 靈智令法



八幡大菩薩のお告げを得て菅田宗廟を立ち去る場面
ち去る場面
黒白の犬が狩場明神の犬

久住世
為度末世諸衆生 世間出世利群生

（金剛秘密仏に帰命したてまつり、靈智をもって久しく世に住せしめん。末世の諸々の衆生を度せんがために、世間と出世において群生を利せん）』

空海が答えます。

『稽首八幡大菩薩 示現神通度衆生
断除十悪為十善 覆護衆生能与楽

（八幡大菩薩に稽首してたてまつる。神通を示現して衆生を度し、十悪を断除して十善をなし、衆生を覆護して、よく楽を与えたまえ）』

空海が八幡大菩薩のお告げを得て、密教を広めるために努力することを誓い、従者と共に菅田宗廟を立ち去る場面です。

空海は高野山を開くにあたり、狩場明神の道案内で適地を見つけたと言い伝わっております。その時、狩場明神に従っていた黒犬と白犬も今回の場面に

登場しております。

『誉田宗廟縁起絵巻』は、八幡神である応神天皇が崩御されてから、誉田宗廟に伝えられる絵巻であります。そのうち、八幡大菩薩が人の姿として現れる唯一の場面を、彫り物として表現しております。

山本師は、空間を広く見せる技法でこの場面を作り上げており、だんじりの組上がり時が非常に楽しみな部分でもあります。

だんじり曳行中でも、常にご覧いただける箇所にあります。ご期待ください。

新調地車の彫り物

進捗報告

各部の仕上げ

山本師の工房では、10月に大屋根、小屋根の横槌等細部の仕上げ作業が行われました。

植山工務店は8月から10月前半まで繁忙期であり、新調だんじりの木造りがペースダウンしました

が、特に工程上の問題が発生したわけではございません。

次工程では、松良受、竹の節等の下絵準備、打ち合わせに入っていきます。

懸魚とは、機能的に屋根の両端の瓦のない部分を雨風から守るということ、(木造建築の場合には)棟木や桁の端を隠すという意味があるのですが、その起源は水と縁の深い魚を屋根に懸ける＝「水をかける」という意味から、建物を火災から守るために火伏せのまじないとして取り付けられたということです。昔の生活の中の工夫と、信仰の中で生まれた伝統なのかもしれません。

新調だんじりの懸魚は、『日本書紀』『古事記』にならっているとすると、兵主神社の本殿の一部をなぞらえたもの、および掃守の地名に由来しているものを施す予定です。山本師との打ち合わせの中では、一つの部位に意味が込められた他に類を見ないだんじりになるとのこと、非常に期待しております。

下松町さん

サプライズ

本宮9日の雨の夜間曳行時、下松町さんの粋な計らいがありました。

昼からは雨が降り出し、気温も低い中、夜間曳行の中止も検討された今年の祭。出発時間が急遽7時の予定から8時に変更し、曳行コースも大幅縮小となりましたが、下松町さんとの並走を行うことができました。そんな中、西之内町の現だんじりに対する想いを描かれた垂れ幕が下ろされ、参加者一同大変感激いたしました。下松町さんとは長いお

付き合いの中、さらに深いご縁を感じる良い思い出となりました。誠にありがとうございました。

新調委員の独り言

3年ぶりの通常開催となった祭礼も、現だんじりの破損事故もなく無事に終わり、その後もコロナの感染拡大が起きているという情報もないことに安堵しています。思ったより多くの子どもさんが綱を曳き、だんじりの後ろを走る親子連れが多いことも、コロナ以前のように戻りつつあると感じるところです。新調だんじりが完

成しても、この雰囲気を受け継いでいかなければならないと感じました。今年の祭礼関係者のみなさまに改めて御礼と感謝を申し上げます。お疲れ様でした。

